

『木材と文明』

下記の通り誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

※2014年7月4日現在

●P.214 上段 22 行目

そして、一九七〇年代になると、経済成長とエネルギー消費量は不可分の関係にあるという固定観念ができあがるまでになったのです。

⇒ **それで**、経済成長とエネルギー消費量の**増大**は不可分の関係にあるという固定観念が**一九七〇年代に入るまであった**のです。

●P.216 上段 2 行目

たとえば、「生きている木」の垣根を「死んだ」木に替えるという指令が繰り返し出されましたが（プファイル、一八三九）、これもアイデアの一つでした。垣根は、実際に田舎における最大の木材消費者の一つであり、その木を垣根ではなく木製品にすれば、一回の伐採で多くの木材が得られるからでした。

⇒ たとえば、「**死んだ木**」の垣根を「**生きている**」木の**垣根**に替えるという指令が繰り返し出されましたが（プファイル、一八三九）、これもアイデアの一つでした。垣根は、実際に田舎における最大の木材消費者の一つ**でした。だから、その代わりに垣根を木材生産者にすれば、伐採することで多くの木材が一挙に得られるようになる**からでした。

●P.230 上段小見出し

七. 木炭 → 七. **石炭**

●P.254 上段 22 行目

林業の利回りは、最近数十年間は大きな変動に翻弄されました。

⇒ 林業の利回りは、**最近一世紀の間に**大きな変動に翻弄されました。

●P.308 上段 18 行目

それによって比較的軽量の家屋を建てることのできるのです

⇒ それによって比較的**容易に**家屋を**建て直す**ことのできるのです

●P.312 下段 11 行目

中国の農業における家畜の飼育の意味が――集約的な棚田稲作にあってさえも――ヨーロッパの大部分の地域における意味とそれほどかけ離れていなかったという事実で

す。

⇒ 中国の農業における家畜の**飼育が**——集約的な棚田稲作にあってさえも——ヨーロッパの大部分の地域における**ような意味をまったく持っていなかった**という事実です。

●P.332 下段 10 行目

しかし、もちろん、このことは、森の様々な利用が相互に衝突するようになるや否や、森の利用が権利化され、森の利用者が自身の利益のために法的手段をもって闘うことができたことによるものではありません。

⇒ しかし、もちろん、**とりわけ**このことは、森の様々な利用が相互に衝突するようになるや否や、森の利用が権利化され、森の利用者が自身の利益のために法的手段をもって闘うことが**できたことによるものです**。